

三十パーツ位、一足飛びに上るので、日本語熱が青年層を風靡云々。とあつて、あたかも明治初年の日本によく似てゐるのである。中華民國においても、日本語熱がすこぶる高いのであるが、元來民國の要路にある大官の多くは、日本に留學し、日本語の解る人々であるところから、青年層の出世慾の盛な連中が、日本語を學びさへすれば、立身出世が出来るものゝやうに考へ、一語でも日本語を覺えたいと望んでゐるのは無理もないのである。つまり、なんらかの必要にせまられるか、あるひはなんらかの利益があるといふので、日本語を學ぶものが多くなると、自然に日本語が普及するのであるから、共榮圈内の各民族をして、日本語學習の必要あるひは恩惠を感じさせるやうに仕向けることが、日本語普及の對策としては、もつとも緊要な條件である。さきに述べた通、わが國が共榮圈の盟主として、各民族の指導啓發の任にあたる以上、日本語が圈内の通用語となるべきは當然であるから、その關係から見ても、今後日本語が南方圈内に、急速

に普及するであらうことは、毫も疑がないのであるが、しかし、これは知識階級に限られる傾きがあるから、民族一般にひろく普及せしめるには、日本語學習の必要とその恩惠とを、感得させることが上策である。日本語を學んだために、なんらかの恩惠に浴して居る實例を、幾多見聞すれば、あらそつてこれを學ぶやうになることは、きはめて自然であるから、日本語普及の對策としては、まづ何をあいても、各民族の日本語熱をそゝるやうな、なんらかの手段を講ずることに、ふかく意を用ゐなければならぬ。

五

以上に述べた通、わが國威が全世界に宣揚するに従ひ、日本語が急速に普及する實狀にあるのは、まことに慶賀に堪へない。ことに大東亞共榮圈は、わが國と密接な關係を有するところから、普及の速度も他に比してはるかに高いことも當然であつて、マニラではこれまでひさしく閉鎖されてゐた小學校を、本年六月一

日より再開して、日本語を必修課目とし、ローマ字によつて教授してゐるさうである。また昭南市では、町の辻々には日本語で書いた繪入りポスターが、一面にはられてゐる。マレイ軍宣傳班員の首唱で、日本語普及運動が、マレイ・スマトラに、非常な勢で擴がつてゐるが、さらにその運動を推進するため、六月一日からは「日本語普及週間」が開始される。「日本語をアジアの公用語に」といふスローガンを掲げて、傳單散布に、映畫に、講演に、放送に、多彩な普及運動が、一週間にわたり、展開されるとのことである。市内各小學校では、マレイ人も、インド人も、支那人も、みな日本語を習つてゐるが、この週間中は、さらに日本語の授業を多くし、日本語の唱歌もさかんにうたはせる。商店の看板にも、日本語を採り入れるやうに指導し、市電の行先地點も、片假名で表示される。昭南劇場では、連日日本語による兒童劇や、聲樂が上演され、幻燈による日本の童話も紹介され、六十萬市民の日本語熱がいやが上に高まつてゐることが通信に見えてゐる。

かくのごときは、今後皇軍の占領地域至るところに見られる現象で、まことに喜ばしい極みである。

しかるに、日本語の普及はたゞその自然の成行に任せておくべきでない。できるだけ、純正にして品位の高い日本語を、押しひろめなければならぬのであるから、それにはまづ基本語彙を選定することが必要である。もつとも、その基本語彙には二種あつて、その一は外國人が日本語で用を達し得る、最少限度の語彙として選定される、三百語・五百語・八百語、あるひは一千語といふ、ページック式のものであり、その二は日本語として、もつとも基本的なもので、これは三千語・五千語あるひは一萬語といふやうに、選定の建前によつて、その數が定められるものである。さきに臨時國語調査會から發表された、常用漢字表一千八百五十八字は、日本人の社會生活において、もつとも基本的なものとして選ばれたものであるが、それと同じやうに、日本人の社會生活上、もつとも普通にして必

要な語彙を選定し、これを基準として國語教育が進められるべきである。しかるに、これまでいづれの基本語彙も、いまだ的確に選定され、國民一般の認容したものが無い。これが日本語を普及せしめるに當つて、痛感される大きな缺陷である。聞くところによると、情報局で南方に日本語を普及せしめる目的の下に、さしあたりページック式の三百語を選定されて居るさうであるし、國際文化振興會においても、二千五百語見當の基本語彙を選定されて居るといふことであるが、かやうな基本語彙が選定されたならば、日本語の普及に資益するところ、きはめて大なるものがあるであらう。外國人で日本語を熱心に學んで居るものが、これまでも少なくなかつたが、かれらの切に望んで居るのは、基本語の辭書である。しかるに、かれらの希望を満足させるやうな辭書は、遺憾ながらまつたかないのである。もちろん右の様な辭書ならば、一萬語から、二萬語位の語彙を、採録することが必要であらう。現代の社會生活には、ほとんど使用されない古典的なも

の、ことにすでに死語に歸して居るものは、絶対に採り入れてはならぬ。あるひは他に適當な和語もあり、平易な漢語も存するのに、ことさらに生硬な漢語を採録することも避けるべきである。かくして純正かつ上品な基本語彙として、一萬語で足りるか、二萬語なければならぬか、それは慎重研究して見た上でなければ判明しないが、とにかくさうした基本語の辭書を編纂することが、實に刻下の急務である。もちろん右のやうな基本語彙は、たゞ選定しただけでは無意味であつて、一般の國民文學はできるだけこれによらねばならぬ、自己本位の趣味で、無制限・無統制に、その以外の語を用ゐないやうに自省すべきである。外國人が折角日本語を學んでも、それだけの力では、日刊新聞は容易に讀めないのに、いたく失望してゐるのである。といふのは、わが國の日刊新聞には、用語になんらの基準もなく、統制もない。各自思ひのまゝの用語や、表現形式によつてゐるから、これを自由に讀解させるには、二年や三年では困難である。わが國民學校修

了程度のもので、今日の新聞記事を自由に讀解することは、おそらく容易でなからう。それは國民學校で學んだ以外の、語彙なり表現形式が少なくないからである。歐米の新聞は、大體そのよるべき基本語が定まつてゐて、その以外のものは、特別の場合でなければ使用しない。しかるに、わが國の新聞記事には、大日本國語辭典にも、載つてゐないやうな語彙が少なくないから、辭書をたよつて、新聞記事を讀解することが困難である。歐米の新聞ならば、袖珍辭書でも、大體讀解するのに差支ないやうになつてゐるが、これは社會一般に慣用される基本語が、およそ定まつて居るからである。一體、漢字は一語一字のものであるから、これを結び合はせると、新しい語彙が容易に作られる。つまり造語法がきはめて容易であることが漢字の長所である。しかし、それが同時にまた短所であつて、バラツク式の間合せの新語が、それからそれと、日に月に作り出されてゐる。支那事變以來、新聞紙上にあらはれて居る新語の数が少なくないが、それはほと

んどすべて漢語といつて差支がない。歐米各國においても、新語が時に作り出されることもあるが、しかし、その数がきはめて僅少である。ことにフランスでは、新語を作成する必要を生じた場合、文部省が學士院アカデミーと協議の上、その決定したものを官報で告示するといふ、きはめて慎重な態度を取つてゐる。であるから、民間に流布してゐる普通の辭書に、收めてゐないやうな語が、新聞に載つて居ることは、ほとんどない。ゆゑに、外國人が辭書をたよつて、その新聞を讀むことも容易であるが、わが國の新聞は外國人にとつてそれがほとんど不可能である。これが日本語の普及において、一つの大きな障礙であるから、これをできるだけやく取除くやうに心掛けなければならぬ。

六

つぎに、日本語の普及に取つて、もつとも必要なことは、各種の教本を作ることである。すでに南方向けの日本語教本として、各種のものが日に月に出現して

るが、しかし、その多くは、時局の波にのつて、早急に作られたもので、用意周到を缺いてゐる憾みがある。日本語はいかなる方式によつて、その教授を進められるべきかが重大な問題で、その方式如何によつて、教本の編纂法が異らなければならぬ。大體外地においては、直接法 (direct method) によつて教授するのが常例になつてゐるが、しかし、その直接法にも、いろいろな方式があるから、その方式に即した教本を作ることが、もつとも緊要な條件である。教授の方式に即しない教本では、その運用が困難で、自然十分な成果を擧げにくいことは明である。いづれにしても、直接法による教本には、教へ方に即應した挿繪を利用することがもつとも効果的である。すなはち、教へ方に即應した挿繪を、いろいろに工夫すれば、非常に教へ易くなるのである。學ぶものは、その挿繪を見て、意味を容易に理解することが出来るし、またこの挿繪を利用して、會話の糸口を見出し、いろいろ問答することも出来るのである。

それから右の教本は三百語なり、五百語なりの基本語によつて、編述されなければならぬ。語詞としてももつとも効率の高いものを、自由自在に使ひ得るやうにしなければならぬから、幾度も繰返して、同一の語を教本に提出する必要がある。肯定の形式のみ、頻繁に提出して、これに對する否定の形式を、まつたく提出しなかつたり、あるひはたゞわづかに一二回しか出さないやうでは、十分日本語を利用し得るまでに上達しない。現在・過去・未來の形式についても、やはり同様に、アリマス・アリマシタ・アリマセウは、いづれも必要な形式である。實際使用の度數から見ると、アリマスに對してアリマセウの使用度數が、はるかに少ないのであるが、しかし、アリマセウを軽く見るわけにいかぬ。實際さう言ひあらはさなければならぬ場合があるから、やはりアリマスと同じやうに練習する必要があるので、教本にそれだけの用意をして置かなければならぬ。

つぎに、この教本は基本語彙によつて編述されなければならぬ。三百語か五百

語か、程度によつて、そのいづれによるにしても、日本語教本は、基本語の範圍外に逸脱してはならぬ。三百語程度の教本ならば、その範圍で編述し、たくみにこれを利用して、十分その目的を達し得るやうに指導しなければならぬ。

それから、日タイ會話書・日比會話書といふやうな、各民族に對する會話書を編成することも必要である。買物・訪問・旅行・食事等に必要な會話を、それぞれ部門分けて編成し、これによつて日本語の用法を練習させることが、効果的である。また繪本も日本語の普及には、おほいに役立つものである。各民族の兒童を引きつけるには、繪本が大きな役割を果すものである。兒童はその繪本に興味を持ち、これを鑑賞して居る間に、それに添へられてゐる日本語を、自然に覚えていくのである。兒童に多大の興味を持たせるやうにすれば、かれらは進んで日本語を學んでいくので、たゞ強制的に詰め込ませうとしては、効果があまり擧げられない。日本語を學ぶと、面白いものが讀めるとか、これまで知らなかつた新しい知識が得られるといふやうに、一つは興味、一つは利益で、兒童を引きつけることが有利な結果をもたらすものであるから、これに對應する種々の工作を進めることが、何より肝要である。

南方諸民族に對して、啓蒙を主眼とした日本語の日刊新聞を發行して、あまねくかれらに讀ませることが、國語政策上もつとも効果的であると信ずる。この日刊新聞は一千語位の基本語で編輯し、用語にしても、表現形式にしても、一般に使用されて、きはめて通俗的なものにより、行文も達意平明なものにする。日本語にすこしく熟したものであれば、あまり困難なくして讀み得るやうにする。全文假名にして、たゞきはめて普通に用ゐられる漢字は、若干用ゐるだけに止める。内容は大東亞戦争の模様から、産業・科學・醫事・衛生・商業・農業その他日常生活に、必要な知識をそれとなく知らせるやうにする。あまりむづかしく書き綴ることは、できるだけ避け、多大の興味を以て、ある記事を讀んでいく中に、今

まで知らなかつた、いろ／＼な知識を獲得して、生活上多大の利益を感じるやうに編輯すれば、かれらはあらそつてこれを読むであらうし、またこれを読むに従つて、かれらの生活が向上していくに相違ない。しかも、その間に日本語に熟達し、日本の文獻に親しんで、いつとはなしに日本精神に同化していく。日本精神に同化していけば、大東亞共榮圈の發展に知らず／＼相協力するやうになることも、また當然である。なほ右様の新聞は、啓蒙本位になつては、無味無臭に陥るおそれがあるから、それと／＼にも興味津々たらしめるために、逸話や笑話なども掲げるし、いろ／＼な童話や物語なども載せる。また寫眞や挿繪などもあしらつて、興味をそゝるやうに工夫する。はじめは程度を下げて編輯するが、民衆の知識が向上するにつれて、その程度をだん／＼高めていくべきであらう。

七

さきに述べた通、海外に普及せしめる日本語は、純正にして、かつ品位の高い

ものであることを、緊要な條件とするのであるが、日本語には現在のところ、いまだ標準語として十分な資格の備はつてゐるものがない。國語教育においても、また國民文學においても、大體東京語を標準としてゐることは、何人も認めるところであらう。しかるに、現在の東京語は、徳川時代の江戸言葉に、明治維新以來、關西方言が混じたものであるが、發達日なほ淺いために、關西方言との混和が、十分熟してゐないし、江戸言葉にも、種々の特徴があつて、それはいまだ標準語として認めることが出来ないものである。東京語としても、上中下の三階級に行はれるものが、それ／＼異なるところもあるので、中流社會にもつばら行はれてゐるものを、標準とするといふことになつて居るが、それたしても、これをわが國の標準語としていくまでには、解決を要する種々の問題が存して居る。まづ發音について見ると、江戸言葉には、シとヒとたがひにあやまる習慣があるが、これは標準語としては、もとより問題にならない、當然捨てるべきものであるが、

この外、現在の東京語には、カとクワの區別がなく、すべてカと發音して居る。けれども、これを嚴重に區別して居る地方も少なくない。日本全體から見ると、これを區別する地方と、區別しない地方と、ほとんども相半してゐるやうである。もつとも、これを區別しない地方が、年とともに擴大していく事實は、たしかに認められる。また東京語では、警察・兵隊・丁寧をケーサツ・ヘータイ・テーネーと、長音に發音してゐるが、關西地方では、大體これをケイサツ・ヘイタイ・テイネイと、重母音に言ひあらはしてゐる。それから主人・出發・千住・新宿を、東京語ではシジン・シツパツ・センジュ・シンジクと、直音に發音するが、關西では、シュジン・シュツパツ・センジュ・シンジクと、拗音に言ひあらはしてゐる。かやうに、東京語における發音と、關西言葉における發音と異なるものは、いづれに従ふべきかが問題である。語源的に考察すれば、關西言葉における習慣の方が正しいのである。しかし、現在の東京語は、わが大日本帝國の首都に行はれてゐ

るので、その同化力がきはめて強大であり、年に月にその領域が擴大して居るのであるから、これを以て、わが國語の標準とすることが、その發達から見ても、有利であると考へる。

また「雨が降リマス」の「ガ」は、東京語では鼻濁音(ゴ)に發音されてゐるが、四國や九州地方では、濁音(ガ)に言ひあらはされるのが常例である。しかし、多くの人々は、この區別に對して無關心で、自分はそのいづれに言ひあらはして居るかすら、自覺してゐない。滿支や歐米の人々は、これを嚴重に言ひわけてゐるのであるから、日本語の教師が、この重要な事實にほとんど無頓着であるのに、はなはだしく不安の念を抱いてゐる。であるから、今後日本語を、外國人に授けようとする人々は、そのいづれかに一定して、指導の任を果すべきである。しかるに、ある人は鼻濁音に、ある人は濁音に言ひあらはすやうでは、外國の人はそのいづれに従ふべきかに迷ふのであるから、右のやうな不安を一日も早く

取除くことが、日本語の海外進出を圓滑ならしめるのに、必要缺くべからざる條件である。

以上は發音について、その一端を述べたのであるが、日本語を外國人に授ける場合に、發音上整理統制を要する問題は、この外にも多々存する。また、語彙や表現上の形式になると、かならずしも東京語を絶対の標準とすることが出来ないし、さればといつて、關西言葉で完全に補ひ得るとも考へられない。これについては、國語審議會をして至急整理統制に當らしめることが、實に刻下の急務であらう。すでに滿支の各地において、日本語の教授に當つて居る人々の中には、標準語の素養が乏しく、平然として地方語を授けて顧みないものがあつて、はなはだしく信用を失墜して居る嫌ひがあるやうに聞いて居るが、現在の東京語を標準とするにしても、以上に擧げた疑問を、そのまゝに差置いては、思ふやうに成績を擧げ得ないのも無理ならぬことで、これをすべて教へる人へののみ、責任を負は

せることは出来ないであらう。海外に日本語を進出せしめるためには、すみやかに標準語を制定し、發音の標準を明確にして、なんら迷ふところなく、安心してその練習を行ひ得るやうにすべきである。ドイツ語にしても、フランス語にしても、發音の標準がきはめて明確に一定して居るから、その練習を行ふのに、その據るべきところに、いさゝかも迷ふことがない。であるからこそ、ドイツでは、小學校第三學年までに、方言訛音を矯正し、その標準音を正確に言ひあらはし得るやうに教育し、第四學年から、全國一齊に津々浦々の小學校に至るまで、標準語によつて教育を進めることが出来、その間なんらの疑惑を生ずることがない。もちろん人によつて、發音の標準が區々であることは絶対にない。ドイツ本國がさうなつて居るから、ドイツ語を外國に普及せしめる場合に、學ぶものをしてその據るところに迷はせることは、絶対にないのである。しかるに、わが國では、現在本國における國語教育が、いろ／＼に動搖して居る。發音の標準が明確に一

定してゐないので、人により地方により區々である。滿支や歐米の人々に、日本語を教授する場合、アクセントが區々であることが、非常な支障を來して居るので、これを現状のまゝに放任してゐては、海外進出の上に暗影を投ずる危険がある。従つて日本語のアクセント辭書として權威あるものが、現在力づくよく要求されて居るのである。さいはひこれに對しては、吉澤義則・三宅武郎兩氏編纂の「アクセント新辭海」があらはれて居ることは、まことに意を強うするものである。ト表示

八

つぎに、その對策として重要な問題は、假名遣についてである。現在わが國では、古典の假名遣が一般に行はれてゐる。すなはち、各官廳の公用文書はもちろんのこと、各新聞・雑誌およびその他の刊行物は、一般に古典の假名遣が用ゐら

れてゐる。しかるに、古典の假名遣は、現代の發音と一致しないために、これを一々記憶しなければならぬので、學習上から見ても、使用上から見ても、その勞力がすこぶる大なるものである。しかし、日本の兒童は、言葉の方ははやく覺えるが、これを古典の假名遣によつて書きあらはすことが、なか／＼容易な業でない。ところが、外國人から見ると、文字に書きあらはされたものによつて、だんだん日本語を學ぶのであるから、古典の假名遣では、すこぶる困難なものであることは、言ふまでもない。たとへば今日は「ケフ」であり、京は「キヤウ」であるが、その發音はともに同一である。發音は同一でありながら、一方を「ケフ」一方を「キヤウ」を書きわけることが、外國人に取つては容易でないのである。日本の兒童に對しては、「今日」は「ケフ」と書くべきで、「キヤウ」「キョウ」と書いては誤りであると説明すれば、それで一應兒童が納得するのであるが、外國人は右のやうな説明では理解することが出來ないのである。つまり、外國人は「ケ

フ」と書いてあるものを、「キョー」と發音すること、そしてそれが今日といふ言葉であることを學ぶのであるが、それと同時に、「キャウ」は「キョー」と發音して「京」の意味であることを知るわけである。發音が同じでありながら、「ケフ」「キャウ」と書きわけることが、ビルマ・マレイ半島・蘭印および比島等の住民に取つて、すこぶる困難であることは、多言を要しないのである。であるから、これらの住民に、日本語を授ける場合には、古典の假名遣によらずに、現代の標準的發音に従て、發音される通に書きあらはす表音的假名遣に依ることが、得策であることは言をまたない。

しかるに、古典の假名遣を強硬に支持しようとしてゐる人々の中には、發音符號として發音通に書きあらはし、外國人に日本語を授けようとする主張する人がある。一體發音符號は正確な發音を表示する場合に用ゐられるもので、「ケフ」「テフ」「アフヒ」「エフ」等はどうか讀んでよいか迷ふおそれがあるから、その正しい讀

み方を示すために、キョー・チョー・アオイ・ヨーと以上の語の右側か、脚下に注したものが發音符號なのである。スタンダード辭書や、ウエブスター辭書などには、語の脚下にそれ／＼發音符音で、その讀み方を注してゐる。この符號はあくまで符號なのであるから、普通のアルファベットとは、異つた字形を用ゐてゐる。しかるに、現在わが國で、發音符號として外地用の日本語讀本に採用されて居るものは、普通の片假名で、發音符號として、特定の字形は備へてゐない。同一の字體を、一方では片假名、一方では發音符號と呼ぶのは、はなはだその當を得ないものである。ことに一般に讀ませる日本語讀本を、發音符號で書きあらはすことは、あまり他に例を見ないものである。表音的假名遣といふ名稱を避けて、發音符號といふことは、すこしく無理な感があるので、むしろ堂々と表音的假名遣に依る方が、外地において日本語を授けるのに、かへつて有利であると信ずる。

現在内地では、古典の假名遣が、一般に用ゐられて居るのであるから、もし外

地において、表音的假名遣により日本語を授けたならば、内地のものを讀むことが出来ないおそれがあるので、むしろはじめから古典の假名遣で、日本語を授ける方が穩であると論ずる人もある。一應もつともな意見であるが、内地のものを讀む人が實際どれだけあるか疑問で、おそらく日本語を學んだものの幾分に過ぎないのであらうし、内地のものを讀んで見ようといふのは、有識階級の人であらうから、それらの人々は、特に古典の假名遣の讀み方を學ぶことにすれば、それで十分である。古典の假名遣でも、單に讀むだけならば、さほどむづかしいとは考へられないから、その讀み方をすこし稽古すれば事足りるのである。臺灣や朝鮮などでは、低學年の間、表音的假名遣により、上學年において、古典假名遣の教材を讀ませるやうにしてゐたことがあるが、それでも差支がないのである。たゞ書くときは、一切表音的假名遣で統一すればよいので、内地の人々は、表音的假名遣で書いて來た手紙も、別に怪しまずに讀んでゐる。現に電報には、發音通に

書きあらはされるものが少くないが、それですこしも差支がない。「十條」をジュウジョウと書いても、立派に配達される。かへつてジフデウといふ古典假名遣の方が、あやまられる危険があるかも知れない。甲府を驛名標にカフフと書いてあつたために、通り過したといふ笑話すらある位で、コウフと書く方が、かへつて間違がないであらう。

これを要するに、南方圏内の占領地における日本語教授には、原則として表音的假名遣を採用し、原地人にして進んで内地の新聞雑誌や、その他の文献を讀まうとする人があれば、特に古典假名遣の讀み方を、なんらかの方法で指導すれば、それで十分である。

つぎに、さきにも述べた通、漢字は特に必要あるものに限る、若干授けるがよいと思ふが、その數はできるだけ少なくすべきであらう。假名は片假名の方が、平假名よりも學び易いのであるから、これに重きをおくべきであるが、しかし平

假名も然るべき時期に、一通り讀めるやうにしておくことが便利であらう。それから大體假名で書くことになる、分別書き方と、句讀が問題になるのである。分別書き方については、國語學上から見ると、いろいろむづかしい問題もあらうが、まづ大體現行國定教科書におけるものを標準とすれば、それで差支ないと思ふ。また句讀は現行國定教科書におけるものによつて差支ないが、しかし國民學校の訓導すら、自信を有ち得ないやうなむづかしい句讀を、外地ことに南方圈諸島の住民に學ばせることがすこしく困難であらう。ゆゑに、句點は文の終りでうつことにして、これは別に問題はないが、讀點になると、日本人でも現在のところ確信を有ち得ないのであるから、たゞ常識によつて、語句の切れ目にうつといふ位で差支がないと思ふ。文章を讀んで見ると、自然にその切れ目があるから、そこに讀點をうつといふ位の約束で、進む方が樂であらう。國語學上または文法上から考察して、その構成に重點を置くことになる、非常にむづかしくなる。

ことにこれまで句讀にはあまり意を用ゐなかつたので、内地においても、いまだ一定したものがないし、一般に慣用されてもゐない。官廳の公用文のごとき、誤られ易いところには、讀點をうつこともあるが、全文には句讀をうたないものが多い。しかし、句讀にまつたく注意しないと、兒童の綴り方などに見るやうな誤りを犯し易いので、文章を書くときには、任意のもので差支がないから、これを打たせる習慣をつけるがよい。それでないと、どこまでも續けた文章を書き綴り、意味の不明を來たすおそれがあり、ことに兒童の文章に、その弊があるから、これを避けさせるためには、句讀が相當役立つことが認められる。

つぎに、國語の法則、すなはち口語法は、今日のところ、やはり浮動状態にあるので、日本語の海外進出に、少からぬ支障を來してゐる。この法則は、關東地方におけるものと、關西地方におけるものと、その間に多少の相違があるので、そのいづれに従ふべきかに迷ふものがある。たとへば、命令の形式を見ると、關

東地方では、

見ロ 起キロ 受ケロ 爲^シロ

であり、關西地方では

見ヨ 起キヨ 受ケヨ 爲^セヨ

である。ハ行四段活用の動詞は、その連用形に助詞「テ」の結びつくとき、關東地方では、

洗ツテ 思ツテ 買ツテ 願ツテ 仕舞ツテ

のごとく、すべて促音便になるが、關西地方においては、

洗ウテ 思ウテ 願ウテ 仕舞ウテ

のごとく、ウ音使になり、これにはほとんど例外がない、サ行變格活用の動詞は、關東地方では、

爲^シスル スル スレ シ

のごとく、サ行上二段に活用するが、關西地方では、

爲^セシ スル スル スレ セ

とサ行變格活用に用ゐられる。また飽・足・借といふ動詞は、關東地方において、上一段活用に用ゐられるが、關西地方では、すべて四段活用になつてゐる。また關東地方では、

案^シル 煎^シル 判^シル 談^シル 應^シル

と、上一段活用に用ゐてゐるが、關西地方では

案^ズル 煎^ズル 判^ズル 談^ズル 應^ズル

と、サ行變格活用に活かせるのが常例である。

その他、助動詞や助詞の種類、およびその用法は、やはり地方によつて、多大の相違が存するので、これを統一しなければ、日本語を學ばんとする外國人は、そのいづれに従つてよろしいかに、少からず迷ふので、それが自然に日本語の發

展を妨げることになるのである。日本語海外進出の對策としては、國語にせよ、國字にせよ、あるひは假名遣にせよ、その基準を嚴重に一定して、その據るところに迷はせないやうにすることが、なによりも緊要な條件である。

九

なほもう一つ重要な問題は、文章の改善と統制である。いふまでもなく、文章は音聲言語と文字言語によつて、多少異なるべきものであつて、それは英佛獨等の國語について見ても、あきらかに認められる。しかるに、わが國における兩者の相違はあまりにも甚しいのである。ゆゑに、これまで外國人が折角日本語を學んでも、二ヶ年位の學力では、日刊新聞はなか／＼容易に讀解することが出來ないのである。これがもし英佛獨等の國語ならば、二ヶ年の學習によつて、日刊新聞を讀解する力が容易に得られるのである。それには、いろいろの原因があるので、すなはち、標準語が一定してゐるとか、文字組織が簡單であるとか、文體が言文

相一致してゐるとかいふことが、その中の有力な原因として取り上げられる。しかし、その中で、一層有力な原因であると思はれるのは、英佛獨等においては、音聲言語と文字言語による文章の差異が、さほど大きくないといふことである。もちろん兩者による文章の相違は、ある程度まで認められるが、それにしても、さほど大きなものでない。しかるに、わが國におけるものは、その間の差異が非常に大きい。今日音聲言語としては、まつたく用ゐられない、むかしの文字言語、すなはちこれまで文語と呼ばれてゐるもの、要素が、依然として現代口語文の根幹をなしてゐるために、音聲言語を一通り學んだだけの力では、容易にこれを讀みこなすことが出來ないのである。ことに日刊新聞の文章は、漢文直譯體がその基礎をなしてゐるから、國民學校上學年の生徒でも、おそらく自由には讀解し難いのであらう。つぎに、日刊新聞から、その一例を取り上げて見ると、

戦勝に輝く海軍記念日

皇國興隆の大きな礎石となつた、日本海々戦から卅七年、われ等はけふまた海軍記念日を迎へた。時あたかも大東亞戦争は酣である。今日の戦ひが、國家の興廢を決定すべき大戦果である點において、卅七年前の戦ひに比し、その重大性は優るとも劣らない。しかるにわれ等が宣戦の大詔を戴いてから殆ど半歳、皇軍は空海陸の至るところで、戦勝に次ぐ戦勝を収めて來た。帝國海軍が、眞珠灣・マレー沖の兩海戦から、最近の珊瑚海々戦に至るまで、その一戦ごとに擧げた勝鬨は、卅七年前の今日、日本海々上に唱へられた勝鬨を、太平、インド兩洋上に擴大したものであり、皇國の武威はいやが上にも發揚せられた。

發表された緒戦以來の海軍戦果は、われ等國民をして新しい感激に浸らしめ、

世界の耳目を驚倒させずには置かなかつた。

右の文章を一讀すれば、いかに音聲言語と異なるかを容易に知ることが出来るであらう。用語から文型に至るまで、日常の談話には見られないものが多い。最後の一節

發表された緒戦以來の海軍戦果は、われ等國民をして新しい感激に浸らしめ、世界の耳目を驚倒させずには置かなかつた。

のごとき、一通り音聲言語を學んだだけの力では、容易に讀解することの出來ないものであらう。以上の文章は社説であるから、一層文語に近いものであるが、戦争記事や通信のごとき、一般の讀者を相手とするものであるに拘らず、漢文直譯口調のものが多い。一般の國民すなはち、男女老幼の別なく、何人も讀み得るやうに書き綴るのが、新聞の重大な使命であるのに、上層の讀者をいまなほその目標としてゐるから、新聞が民衆化しないのである。女中でも、子どもでも、あ

もしろく讀めるやうに、記事を書き綴ることが、新聞の重要な使命であるが、今日の新聞は遺憾ながらこの條件が、いまだ十分満足されてゐない。であるから、外國人が折角日本語を學んでも、日刊新聞を讀解することが、なか／＼容易に出來ないので、おほいに失望して、中途廢學するものが少なくない所以である。

いまや南方圏内に、日本語が非常な勢を以て擴まりつゝあることは、まことによろこばしいきはみである。しかるに、南方の住民、もちろん有識階級のもものが、わが日刊新聞を容易に讀解し得ないやうでは、今後統治上多大の支障を來すおそれがあるのであるから、これについては、特になんらかの對策を至急考慮する必要がある。それには南方向きの新聞を、現地において發刊することが、もつとも時宜に適したものでないかと思はれる。すでに昭南市では、本年六月十日から、日本語の片假名新聞「櫻」が、マレイ軍宣傳班の手で發刊されることになつた。現在昭南市内に八十一校約一萬に達する小學校生徒があつて、片假名ならば、日

本語の新聞を十分に讀める程度に達したので、右のやうな新聞が發刊されることになつたのであるが、今後その讀者が日に／＼増加するに相違ない。

一體南方圏内の各民族に、讀ませる日本語の新聞は、内地のものに比して、一層達意平明の口語文でなければならぬ。用語は基本語彙五六千語の範圍にとゞめ、その行文も普通一般に行はれてゐる文型により、漢文直譯體の系統に屬するものは、なるべくこれを避ける。音聲言語として、もつとも普通に慣用せられるものにより、文字言語として耳新しいものは、一切用ゐないやうにすべきである。また文字は主として片假名を使用し、特に必要のある場合には、平假名を使用することも認めなければなるまい。漢字もやはり同様で、特に必要のある場合に限り、若干使用するとしても、その數はできるだけ少くすべきであらう。またこれを用ゐるときは、振假名をつけて、その讀みを助けるやうにするがよい。南方圏の民族で、華僑以外のものは、これまで横書きのものを讀んでゐたのであるから、

日本語の片假名新聞も、やはり左横書きにする方が、英語や現地語を挿入する上から見ても、便利であらう。

つぎに、圏内で發行される、日本語新聞は、大體啓蒙的なものであることを、必要な條件とする。もちろん單に日本語を學ばせるだけの目的で發行されるものは、日常卑近な出來事や、生活上必要な知識を授ける位の程度で満足しなければならぬ。しかし、上流の有識階級のものにまで讀ませようとするには、啓蒙的な記事、たとへば東亞共榮圈の進むべき道を、あきらかに説明することも必要であらうし、歐米との關係や日本の政治、産業、軍事、科學等の現状等について、さはめて通俗的にわかりやすく、短片的に叙した記事を載せれば、それを一讀して蒙を啓き、新しい知識を獲得して、愉悅を感じるに相違ない。われ／＼も中學校に進入して英語を學び、これを通して新しい知識を獲得したときの愉快は、いまに忘れ難いものである。これまで統治者のために愚にされて、世界の狀勢も知ら

ず、民族の福利を開拓する術もわからずに、たゞしひたげられて來た、自分たちを振返つて見たとき、日本の手によつて救はれた幸福をどんなに喜ぶことであらう。日刊新聞を通して一日一事でも、一ヶ月一事でも、新しい知識をちかえたために、これまでまつたく味はつたことのない幸福な生活を、送り得るやうになつた自分達を見出すとき、かれらの感激はまさに言語に絶するものがあらう。さうなると、かれらはますます新聞に親しみを持ち、あらそつてむさぼり讀むやうになるのであるから、日本語の力も日に／＼増大していくに相違ない。

新聞は啓蒙的であると同時に、一方において、趣味的なものでなければならぬ。多大の興味を以て讀まれるやうに、記事の選擇と、按配について工夫するところが、新領土の住民に與へるものとして、もつとも必要な條件である。

その他、さはめて通俗的にして、かつ平易に書き綴られた文化的な讀物を、豊富に供給することも、新領土の住民をして、日本を理解し、その統治に悦服せし

めるために、きはめて效果的なものであることも、多言を要しない。たゞ武力によつて威壓することは、一時畏服せしめることは出来るであらうが、しかし、それは決して百年の大計ではあり得ないから、わが帝國の文化にふかくあこがれを有せて、自然に悦服せしめるやうに仕向けなければならぬ。それには、文化的な讀物を利用することが、日本語の進出を助けるばかりでなく、わが國をよく理解し、自然にあこがれを感じさせる上に、好結果をもたらすものであることを知らなければならぬ。

なほ日本語の南方圏進出について、以上述べたもの、外、今後施設すべき對策は種々あるであらうが、これらの對策について、國語協會長公爵近衛文麿、カナモジ會理事長星野行則兩氏より、東條首相に提出された、左の建議書は、政府においても、有力な參考資料としてその對策中に織り込まれるであらうと信ずる。

大東亞建設に際し國語國策の確立につき建議

日本を盟主とする大東亞共榮圈を建設するためには、各地の諸民族の間に日本語を通用語として普及せしめねばならぬ。これまで大東亞の各地には、米英などの勢力によつて、歐米語が通用語としてひろく行われていたのであるが、今後はこれに代えてわが日本語をひろめることが必要である。それによつてはじめて、日本の精神・文化・科學・技術・産業を廣くかつ深く行きわたらせ、大東亞共榮圈を永遠に確立することができるのである。

しかるに、これまでのわが國語は極めて複雑かつ不規則であるから、この際思ひきつた整理改善を加えて、これを簡易化しなければ、大東亞の通用語として、ひろく普及せしめることは、とうてい望めない状態である。

もちろん政府におかれても、これまで國語の調査・整理のために、種々施設さ

れたところもあるが、遺憾ながらまだ見るべき効果をあげていない。

今や皇軍のかどやかしい戦果によつて、大東亞共榮圈の建設は飛躍的な進展を示している。よつてその確立のための基礎工事として、わが國語問題の解決は、もはや一日の引きのばしをも許されぬ場合となつたのである。

ついでには、一日も早く、國語國策の根本方針を確定しなければならぬ。その根本方針は、徒らに國語の現状にとらわれず、徹底した見識と遠大な見通しによつて、決定すべきである。

そして、その根本方針にもとずいて、着々具體的な方策をたて、あらゆる困難を押しきつて、實行することが必要である。もとより問題の性質上、國內においては、順を追つて進まねばならぬことが多いであろうが、國外に對しては、初めから思いきつた方針を立つべきである。

現に皇軍の占領下にある各地の諸民族に示すべき布告・法令その他の公文書並

びに各種印刷物は、この方針に従つて、極めて簡易な言葉と文字とによつて書かねばならぬ。またそれらの地域における日本語教育についても同様である。

よつて政府におかれては、この際すみやかに大東亞におけるわが國語國策の根本方針を確立され、かつ直ちにその實行に必要な諸般の處置をとられんことを望んでやまなう。

就いては、大東亞における國語國策の根本方針として、次の條項をとりいれねばならぬと思う。

一、文體はすべて口語體とすること

國語の整理改善のためには、まづ文體の統一が必要である。幸いわが國の文章は今日ほとんど口語體に統一されようとしているが、まだ文語體や候文が使われている場合もかなり残つている。これは國內においても、なるべく早く口語體に整理統一されるべきものであるから、大東亞の諸國に示すべき日本語とし

ては、今から例外なく、すべて口語體とするのが適當である。

二、わかりやすい言葉を用いること

これまでのわが國語には、和語・漢語・西洋語などが雜然と使われ、同じ物ごとを言いあらわすに、多くの言葉があり、従つて日本語は、外國人が學ぶのに極めて困難な言語であつた。これからの大東亞の通用語としての日本語は、その目的のために嚴密に選定された、わかりやすい言葉から成り立つてゐる、學びやすい言語でなければならぬ。

三、發音を正しく統一すること

わが國はこれまで文字の教育には重きをおいたのであるが、發音の訓練統一などにはさほど力を入れなかつた。そのために國內における國語の發音、ことにアクセントがはなはだ區々であるから、日本語を學ぶ外國人はまつたくそのよるところに迷つてゐる。

今後日本語を大東亞の通用語とするためには、その發音を正しく統一しなければならぬ。

四、文字はカタカナとすること

これまでは支那の文字である漢字がすべてそのまゝ日本の文字と考えられ、なんの制限もなく使われていた。いな、そればかりではなく、漢字を「本字」として尊び、なるべくすべての言葉に漢字をあて、カナは單にその補いとして用いられていた。しかも、わが國における漢字の讀みにいたつては、音・訓とも實に複雑である。

しかし、このならわしが極めて不都合なものであることは言うまでもない。漢字の制限又は讀み方の整理はすでに社會の各方面で主張され實行されており、現に文部省の國語審議會でもその制定につとめて居られる。ことに最近陸軍においては、支那事變以來の痛切な經驗にもとづいて、兵器用語の簡易化の

ために、思いきつた漢字の制限と發音式かなづかいの採用を斷行されたのである。

この傾向はこれからはいよいよその歩みをはやめるであろう。そして漢字が國民常用の文字として使われることは、次第になくなつて行くであらう。それは國語進歩の必然の歩みである。滿洲國・中華民國などの漢字國は、漢字の害毒からのがれようとして、すでに種々の努力を試みているが、その方策の主なものは、わが國のカタカナにならつた表音文字を普及せんとするにある。現にわが國が漢字をこれまでのごとく使つてゐることは、それらの漢字國に對しても、日本語の普及その他の文化工作をかえつて妨げているのが實狀である。さらに漢字國でない南方諸民族に對して、漢字をもとにした複雑な表記法によつて、わが國語を普及しようとするのは、ほとんど不可能である。これは多くの専門家・經濟者の一致する意見である。

それで、大東亞の通用語としての日本語は、初めから、漢字を借らず、すべてカタカナで書きあらわすことが適當である。カタカナこそは、われわれの祖先が、日本語を書きあらわすためにつくりだした、すぐれた文字である。

たゞやむをえない特別の必要がある場合には、漢字を用いねばならぬこともあるであらう。しかし、その場合には必ずフリガナをつけるほどの注意が望ま

五、かなづかいは、字音・國語とも發音式にすること

言葉とこれを書きあらわす文字とが、長い年月の間に、くいちがつてきて、「かなづかい」とゆうめんどうなことがあつた。元來、文字は音をあらわすものであるから、かなづかいは、音の變化につれて、適當に整理されるべきであつた。しかるに、わが國では、いまだに、古い時代からの古典的な、いわゆる歴史のかなづかいが、一般に強いられていることは、まことに不合理である。

一日も早く、學びやすく、使いやすい合理的な「發音式かなづかい」を採用して、一般國民ことに小國民らに負わされた無意味な重荷を取りさらねばならぬ。

ことに、漢字を使うことをやめて、カナモジを多く用いることになれば、その必要は一層痛感されるのである。

大東亞の通用語としての日本語が、初めから發音式のかなづかいをしなければならぬことは、もはや説くまでもない。

六、左横書きと分ち書きをすること

カナモジを用いる結果として、分ち書き（國民學校の低學年の教科書にあるように、言葉と言葉とを區切つて書く式）をすることが必要である。

また數字・ローマ字などを使う便宜その他いろいろの理由から横書きを原則とすべきである。

以上の六か條の根本方針に則つた日本語は、大東亞の通用語としてふさわしい、すぐれた言葉である。

その具體的な實現方法及び普及方法については、種々適切な方策をとるべきであらうが、まず外地の責任者に向かつて、とりあえず應急的な指示を與えらるるに、内地に力強い指導機關を設ける必要があると信ずる。

右の外、カナモジカイおよび日本ローマ字會からも、南方圏に日本語を進出せしめる方策について、すでに發表されたものがある。これも有力な參考資料であると思ふので、左に掲げる。

東亞共榮圈ニ

日本語ヲ普及セシメル方法ニツイテ

東亞共榮圈ノ確立ニハ、コレヲ構成スル國民ト國民トガタガヒニ理解シアフコ

トガナニヨリモタイセツデアル。ソノタメニハ日本語ヲ普及セシメルヨリホカニ方法ハナイ。サウシテ、コレラ諸國民ガ、日本人ト共同シテ、産業ニ従事スルタメニハデキルダケ多クノ國民ガ、日本語ヲ理解スル必要ガアル。

日本語ヲ教ヘルニハ、生活上痛切ニソノ必要サヲ感ジテ、コレヲ求メルモノニ對シテ教ヘルノガ一番有效デアル。シカシソノ目的ノタメニハ、教ヘル言葉ハ、必ズシモ高尚ナ日本語デアル必要ハナイ。タダ、タガヒニ思フコトヲ理解シウル程度デヨインデアツテ、ソレニハ日常モットモ必要トスル、最小限度ノ數ノ言葉ヲエランデ、ソレヲ耳カラ教ヘテ「カタカナ」デ發音通リニ書キシルスダケノ能力ヲナルベク多クノ人々ニ與ヘルノガ有效デアル。サウシテ、ソレニハ、モットモ必要ナ言葉ノ選定ガ第一ニ必要トナル。シカシ、ソレハ日本人ガ判斷シテ、選定スルノデハナク、ソノ國々ノ文化ノ程度ニ順應セシムベキデアルカラ、ソノ國デ日常シゲク使ハレテキル言葉ヲ、日本語ニ翻譯スルノガヨイト思フ。

日本語ヲ教ヘル場合ニ、下記ノコトガラハ、カナラズ實行スベキデアル。

(一) 「カタカナ」左ヨコ書キ

「カタカナ」ハ、モットモ簡單明瞭デアツテ、現ニ國民學校ノ一年生ニハマヅコレヲ教ヘテキル

(二) 數字ハアラビヤ數字

コレモモットモ簡單明瞭デ、カツ計算ニハコレガ是非必要デアル。サウシテアラビヤ數字ヲ使フタメニモ(一)ノ左ヨコ書キガ必要デアル

(三) 發音トホリノカナヅカヒ

上記ノトホリ實行サレタ場合ニハ、コレヲ習得スル人々ノタメニ、ソノ限ラレタワヅカナ言葉ノミヲ使ヒ、カツ民衆ノヒクイ教育程度ニフサハシイ新聞ヤ雜誌ヲ發行シテ、國民ヲ指導スベキデアル。ソシテ將來民衆ノ文化ガ向上スルニ伴ヒツ、ソレ相應ノ讀ミ物ヲ出版スルゴトク、オヒオヒ進歩セシムベキデアル。民衆

ノ指導ニハ急進ハ禁物デ、カナラズ徐々ニ進ム注意ガ必要デアアル。サウシテ「カタカナ」ノミニヨツテドコマデモ耳カラ學ビウル日本語ヲ用ヒ、ソノ文化ヲオシススメル方法ヲトルベキデアアル。

以上ハ民衆ニ對スル方策デアアルガ、サラニススンデ知識ヲモトメル希望ヲ有スル所謂、インテリ階級ノ人々モ、少數ナガラ存在スルノデアアルカラ、ソノ人々ニ對シテハサラニ廣汎ナ日本語ヲ教授シ、カツ、ソノ人々ノタメニ、高尚ナ内容ヲ有スル書物ノ刊行モ、マタ必要デアアル。シカシ特ニ日本文學ヲ研究スルモノナドヲ除ケバ、ドコマデモ「カタカナ」デ書キ表ハサレタ書物ニヨツテ、高尚ナ内容ヲ教ヘルコト、シ、漢字交リニヨル、ムヅカシイ表現方法ハ、ツトメテ、コレヲサケルベキデアアル。

ツマリ、コレラ諸國民ノ教育ニ對シ、現ニ日本國內ニ刊行サレテキル書物ヲ、ソノマ、利用スルタメニハ、ソノ書物ヲ理解シウルダケノ難澁ナ文字ヲ、ソレラ

ノ國民ニマヅ教ヘル必要ガアルガ、ソレハホトンド實行不可能ナ努力ヲ強フルコト、ナルノデアアル。

ソレデ將來「カタカナ」ノミニヨツテ書キ表ハサレタ書物ヲ、ドシドシ發行シテ、ソレニヨツテコレラノ國民ガタヤスク内容ヲ理解シウルヤウナ方法ヲ講ズベキデアツテ、東亞共榮圈ノ指導者タルベキ日本人ニハ、ソレダケノ努力ヲ惜マナイ、シンセツ心ヲ有スルコトガ是非トモ必要デアアル

財團法人

カナモジカイ

南方國語政策に關する意見

一、南方に日本語を電撃的に擴めるにはローマ字を以てするに限る。
一、スペイン語、イギリス語、オランダ語は漸次廢めさせねばならぬ。又之は可能である。併しローマ字を廢めさせることは不可能である。

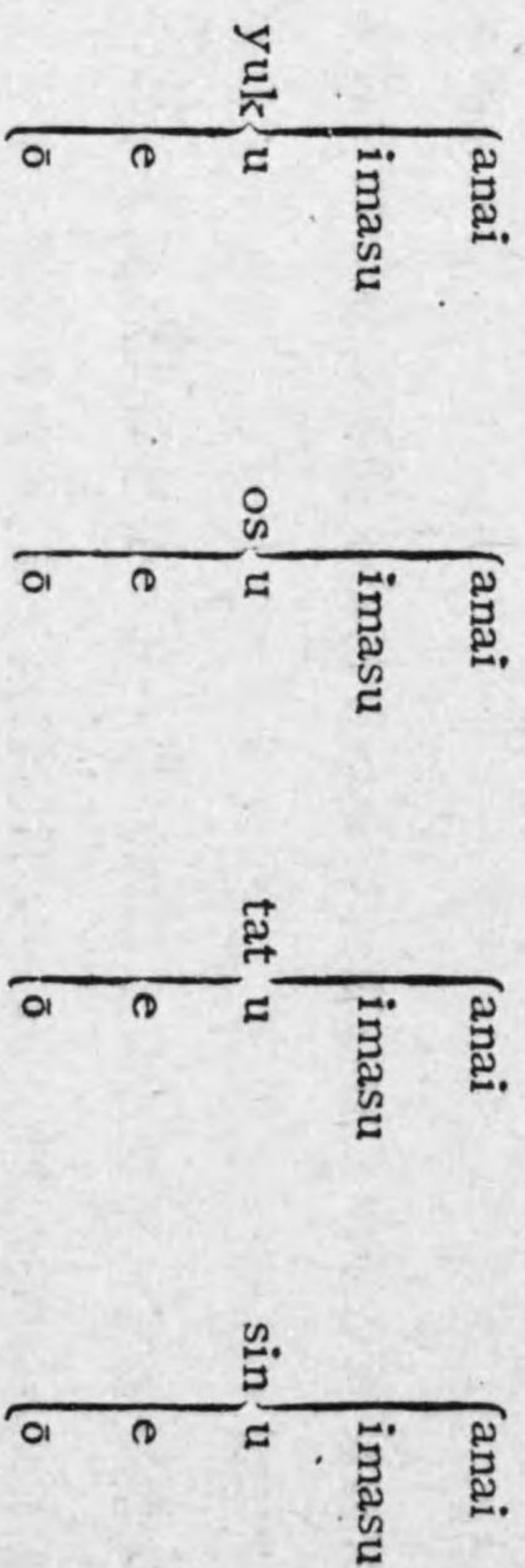
第一、濠洲ハワイは勿論フィリッピン住民語もローマ字以外の文字を持たぬ。第二、舊蘭印諸島マレー、佛印等も現在ではローマ字を用ゐて居り、之を廢めさせることはフィリッピンに次いで極めて困難である。又之を強行するは無理であり、何等の利益を伴はぬ壓制である。只其等の地方に於けるローマ字の使用法には英語、オランダ語、フランス語の影響から來た歪があるから、その點を改訂する餘地はある。之は別に案がある。タイ、ビルマに於ては住民一般にローマ字を使用するには至つてゐないが、しかも此等の地方に於ても、ローマ字は現に知られてゐる文字であるから、日本語を擴めるにはカナ等に較べて格段の容易さである。

一、ローマ字は日本語に最も適した文字である。

カナは支那語の影響で音節文字になつてゐるのであるが、假名に於て五十音圖が制定されたのは、日本文法から單音組織が要求され、その必要に應

ずる補足工事をしたものである。なほ促音、拗音の小字で區別する方法も假名が無理に單音を表さうとしてゐるのである。日本式ローマ字では始から此等の要求を充してゐる。

従つてローマ字でやれば日本文法が簡單明瞭になり、南方住民にも解り易い。



凡て同じ形で濟む。之は本質的に同じ變化なのである。ノム(飲)、とノル(乘)、カッ(勝)とカク(書)、マス(増)とマツ(待)等、何れも語根が同じで語尾によつて區別されるといふ妙なことになるのも日本語の本質にある

ことではなくて、支那語の影響によるカナの無理が現れてゐるのである。日本式ローマ字では、これ等は皆語根の相違となり、語尾は總て前例と同じ變化となる。

一、ローマ字を使ふことを、何か文化的にヨーロッパに負けたやうに感ずるのは、日本人自身の側の一時的のヒガミに過ぎないのであつて、南方住民はさう思はぬであらう。

彼等は日本軍は洋服を着てゐるから、西洋臭いといつて馬鹿にするだらうか。

若し日本軍が軍服と軍艦と飛行機と戦車と大砲とを用ひず、日本刀と白樺でジャバを攻略したとすれば、住民は今日以上に感服しただらうか、その無意味のギセイを笑はなかつたらうか。

どしどし日本語を、住民になじみの深いローマ字で擴める方が、はるかに住

民に親しみを持たれ、日本語も又、文明の利器を驅使することのできる文化語であると感じさせはしないか。

凡て政策はその相手の身になつて考へることである。

一、現在の國內での使用文字と連絡の絶えることはよくないから、ローマ字一本立てで行くわけには行かぬが、最も有力な武器としてローマ字を使はないのは飛行機を使はずに戦争するのと同じことである。

現行表記法との聯絡の意味では、ひらがな縦書に段々漢字を挟んで行くのが當然であるから、ローマ字とひらがなと二本立てにすべきである。總ての書類にローマ字書きを附けて、讀方を住民に示すべきである。

一、因にローマ字は英米文字ではない。其名から見てもイタリヤに起り、ドイツもイスパニヤもフランスもルーマニヤも之を使つて居る樞軸文字である。

ローマ字もエジプト、スメリヤ等の象形文字から出發し、音節文字（カナ

の如きものを経て單音文字に變化して來たのであるが、單音文字となつた理由は、ヨーロッパ語が元來單音語だからといふやうな淺薄な見方で片付けられるべきでない。

元來文字は國語を異にする異民族に入る時に、最大公約數的にくだけて進歩發達するものである。漢字が支那から日本に入り、字形の變化を起してカナとなつたのも、その例に漏れない。ローマ字が單音文字まで發達したのは、地中海沿岸に國語を異にする多くの民族が國をなし、殊にフェニキヤ人が商業國民で、しきりにその間を往來交通したゝめに、段々細かくくだけて最低單位まで到達したのである。

今我國が大東亞共榮圏の諸民族を抱擁して一つの文化單位を建設せんとする際、共通語は日本語と定めるべきであるとともに、なほ諸民族固有の言語を否定しない以上は、之を抱括するに共通文字の制定が必要である。之

には上記、文字の通性に鑑み、ローマ字の如き單音文字を採らねばならぬ。然らば日本語も當然ローマ字を以て、此等の民族にしみ込んで行くべきである。況んや我帝國の文化的使命は、東亞共榮圏のみで終るのではないことも考慮されてよからう。

結 び

南方に日本語を植ゑつける最も有效且つ有利な武器として、ローマ字使用の方法を速かに活用せられたい。

昭和十七年

社團法人 日本ローマ字會

第十章　む　す　び

切にわが國民の自肅反省を望む

一

大東亞戰爭開始以來、勇猛果敢なわが皇軍は、至るところ連戦連勝、赫々たる戦果をあげて、いまや大東亞共榮圈の確立を見るに至つた。爾來共榮圈内の各國家・各民族は、日に月に親日的傾向が濃厚に赴き、英米蘭の依存から離脱して、その色彩を國土から一掃しつゝあることは、さきに述べた通である。これまで、英米蘭の悪政に苦しめられ、民族としての安寧幸福はまつたくふみにじられて、まことにあはれむべき境遇に墮した共榮圈内の各民族は、大東亞戰爭の結果、皇軍の手に救はれ、こゝに安居樂業の新生活に入ることが出来たので、皇軍に對す

る感謝の念が油然而として燃え上がるとともに、英米蘭に對する憎惡の感が極度に高まりつゝあるのは、もとより當然のことであらう。坊主憎くけりやケサまでの道理で、市中の看板をはじめ、その他から、イギリス語やオランダ語を拂ひ去り、また學校においても、學科からこれを取除き、音楽や映畫からも、英米蘭所作のものは一切禁止するやうになつた。久しきにわたり、英米蘭の暴虐に苦しめられた民族が、かゝる態度に出ることは、毫も怪むに足らぬ。

かれらは英米蘭の依存から離脱すると同時に、一方においては、ふかくわが國に信賴し、わが國の援助と指導により、更生一新將來の發展を期して居るのであるから、わが國としては、あくまでかれらを善導し、共榮圈の一員として、われわれと融和協力し、共榮圈の基礎を確立するに努めさせなければならぬ。それには、今後教育の刷新、産業の開發、文化の進展等につき、かれらを善導すべき重大な責任を、われ／＼日本國民が負はされたのであるから、われ／＼はこれに善處し

て、かれらの期待に背かないやうに心掛けなければならぬ。

二

以上の觀點から、わが國の現状を省察して見ると、わが國民がふかく自肅反省すべきものが多々あるのである。まづ第一に自肅反省を要するのは、歐米依存から一日もはやく離脱することである。すでに教學刷新が叫ばれて以來、漸次離脱の方向をたどつてゐるが、過去を振返つて見ると、いさゝか氣はづかしいものがある。たとへば、わが帝國大學には、西洋哲學や東洋哲學の講座はあるが、日本哲學の講座は設けられてゐない。西洋倫理や東洋倫理の講座はあるが、日本倫理の講座は設けられてゐない。こゝにわが國の教育が、大きな過誤をなしてゐたのであるが、しかも、一人の識者もこれを怪しむものがなかつた。これを見ても、いかに歐米尊重の觀念が、先入主となつてゐたかを察知することが出来る。かやうな歐米尊重の實例は、社會各方面至るところに存在するが、今日の時局に鑑み、

一日もはやくこれを精算しなければならぬ。しかも、今日がまさにその絶好の機會で、これを逸してはならぬ。南方圏内の各民族を善導して、英米蘭依存の弊風を一掃せしめようとして居りながら、日本内地の現状を見ると、依然として歐米尊重の色彩が至るところに満ちあふれてゐる、これをそのまま放任して置くことは、南方圏内の各民族に對して、まことに相濟まぬ次第であらう。もつとも近來自肅反省の事實として、あらはれて居るものも、一二はある。たとへば、大藏省タバコ專賣局製造のものに、Air Ship, Hope, Glory, Cherry, Golden Bat 等、外國語名のもものがあつたが、現在ではまづたく一掃され、Cherry は「りんご」、Golden Bat は「きんし」と改められ、その他のものは、まづたく姿を消してしまつた。これはまことに近來の一快事といはねばならぬ。しかるに、鐵道省は依然として英語の使用を改めない。鐵道各驛には Way out, Station Master, Season Ticket to be shown. For Simonoseki, 2nd class Car stops here, 等の揭示板が

なほ依然として掲げられてゐる。一體わが國は大東亞における獨立の一大皇國である。いまや大東亞共榮圈の盟主として、世界新秩序建設の重責を擔つて居る。しかも、大東亞戰爭開始以來、連戰連勝、大東亞圈内から英米蘭を驅逐して、その片影をも止めないまでに進んでゐる。しかるに、政府關係の文書に、依然として英文を使用して、別に意に介しないことは、實に自らをばづかして居るものといはなければならぬ。世界における自主獨立の國家にして、その政府の公用文書に、外國語を併記して居るのは、わが國を以て、他にその例を見ないものである。

政府にして右のやうな態度を取つて居る以上、民間においても、その例にならふのは、古來わが國の常習である。すなはち商店の看板には、英語・英文を併記して居るものが非常に多い。これは外國人を客とする商略とも考へられるが、外國人などは到底寄りつきさうもない、見すばらしい理髮店の看板に、Barber Shop

と記してゐるのは、まつたく笑止の至りである。外國人にはまつたく縁の遠く、農山漁村の寒驛にも、Way out & Station master の掲示板を見るのであるから別に外國人のためにといふのでなく、たゞむかしながらの傳統で、一種の裝飾になつてゐるものと見るべきであらう。しかし、いづれにしても、みだりに外國人に迎合する意識がはたらいて居るので、まさしく日本國民の誇を傷つけるものといつて差支がない。かくのごときは一日もはやくこれを一掃することが、大日本帝國の體面上緊要であると信ずる。さきに述べた通、タイ國やフィリッピンでは、學校から英語を驅逐したのみならず、市中の看板やポスターにも、英語を用ゐることを禁止し、マニラではアメリカ名の小學校を、フィリッピン名に改稱し、いまや銳意英米的色彩の一掃に努めてゐる。しかるに、これが指導の任に當つて居る日本の内地に来て見ると、英領植民地と見あやまれるほど、英語の看板や掲示やポスターが眼につくのである。タイ國やフィリッピンから、日本へ來た人々は、

これを見て、いかに感ずるであらうか。日本は依然とし英米依存の傳統を捨て、居ない、さては自分達はすこしく早まつたかと、疑惑の念を起すかも知れないのである。もしさういふ人が、一人でもあつたら、それこそ由々しき大事で、大東亞共榮圈の前途にまさしく暗影を投ずるものと言はなければならぬ。もつとも現在のところでは、外を治めるに急にして、内を省る違のないことも事實であるが、しかし、一日もはやく内省して、歐米依存の色彩を、すくなくとも外觀から、一掃することが、急務中の急務であらう。

三

つぎに、大東亞共榮圈内に、あまねく日本語を普及せしめる意圖の重大性は、すでに詳述した通であるが、これに對して、いやしくも日本國民たるもの、十分な理解を有たなければならぬ。しかるに、わが國民は日本語の海外進出に對する、その意義の重大性には、さほど關心を有してゐない。海外に進出せしめる日本語

は純正にして佳麗なものであり、しかも發音なり文法なり、すべて規格の正しいものであることが、もつとも重要な條件である。しかれば、日本國民たるものは、自肅反省して純正な國語をもりたてることに、つねにふかく心を潜めなければならぬのに、その心掛が一般に缺けてゐるのは、まことに遺憾に堪へない。この點に關する自肅反省の念が、國民一般に行きわたつてゐるのは、さすがにフランスである。フランス國民の國語に對する尊重愛護の觀念は、實によく發達してゐる。いやしくもフランス國民たるものは、祖先傳來の國語を純粹正雅な状態に發育せしめることが、まさに國民に課せられた義務であると考へ、發音・用語・文法にふかく注意して、決してその規格を亂すことがない。またみだりに外國語を取入れるやうなことは、國民がたがひにふかく相戒めて居るので、フランス語には、外來語はさほめて少ない。しかるに、わが國民は發音・用語および文法には、平素あまり注意してゐない。言語として、いかなるものが不正であり、破格

であるかも、意に介してゐない人が多い。中には英語なら、文法を知らなければ、文章が書けないが、日本語は文法を知らなくとも、なんら差支がないと放言して居るものすらあるのに驚かれる。右のやうな始末であるから、わが國には、現在のところ、明確な標準語が存在してゐない、しかも一般の國民は毫もこれを怪しまないのである。かくのごとく、わが國民の日本語に對する自肅反省の念が足りないことが、海外に日本語を進出せしめるに當て、大なる障礙をなしてゐることが痛感される。南方圏の民族に、純正な日本語を授けたとしても、かれらの接する日本人が、亂雑にして卑俗な言葉づかひをして居るやうでは、面白からぬ結果を生ずることは言ふまでもなからう。要するに、純正な日本語は、日本國民の總意によつて、育成せられるもので、ある機關において、これを制定して見ても、國民一般がこれに無關心であつては、國語の標準は、つねに動搖して止まないものである。これまでわが國では祖先傳來の國語に對して、自肅反省の必要を

痛感したことがなかつたので、たゞ自然のまゝに任せて今日に至つて居る。しかしながら、大東亞共榮圈内の通用語たるべき日本語に對して、國民はもはや無關心・無頓着であることは許されない狀勢に立ち至つたのである。

しからば、日本語のいかなる點に、自肅反省すべきかといふと、わが國の標準語と認められてゐるものは、現在東京の中流社會に行はれてゐる、純正な言葉づかひであるから、國民一般はこれを基準として、一層各自言葉づかひの純化に努めなければならぬ。もつとも、現在の東京語中には、標準と認めることの出來ないものも少くないから、それらのものは、ふかく省察して、できるだけ純正にして佳麗な言葉をもり立てるやうに努力すべきである。ことに近來は未熟な外來語がさかんに亂用されて居ることは、まことに歎はしい次第で、政府においても、これに對して嚴重に統制を加へるとともに、國民一般も、各自ふかく自肅反省しなければならぬ。朝鮮や臺灣において、純正な日本語の普及に努力して居るのに、

これに無關心な内地人が渡來して、亂雜野卑な言葉づかひを流布することが、大きな問題になつて居るが、南方圈内にもそれと同様な事象が見受けられるであらうことをふかくおそれるのである。現在の東京語も、地方から來る人々の言葉づかひに、その標準の破壊されて居るものが少なくないが、しかし、市民の言葉づかひに對する關心がきはめて乏しいために、豪もこれを怪しまないのみならず、市民自身もその地方語に化せられる傾向が存するのである。いづれにしても、日本國民自身が純粹正雅な言語を維持することに、ふかく自省しなければ、日本語の海外進出に多大の支障を來すべきは言をまたない。

四

大東亞戰爭開始以來、わづか七八ヶ月を經過して居るに過ぎないのに、大東亞圈内から、英米蘭を驅逐して、圈内の民族をして、安居樂業の幸福な生活にひたらせるやうになつた。その自然の結果、圈内の各民族間に非常な勢を以て日本語

が普及してゐる。しかもその普及がすこぶる急速であり、その範圍も廣大であるので、これに對するわが國の準備が、いまだ完成してゐない憾がある。たとへば、日本語教本のごとき、何十萬部あつても、なほ不足を告げて居る状態にあつて、その供給がなか／＼間に合はない。また日本語教授上もつとも必要な基本語彙、および基本文型の選定も出來てゐない。各方面では、すでにその選定に着手して居るものの、いまだ完成を見るに至らないのである。従て一層大切な基本語彙の辭書が、編纂されてゐないので、これが外國人の日本語學習における、一番大きな苦痛である。なほまた標準語が確立してゐないから、口語文典として、外國人向きのものが乏しいのも、當然のことであらう。つまり、日本語を海外に進出せしめるに必要な準備が、いまだ完成してゐないことは、まことに遺憾であるが、政府としても、また民間側としても、一日もはやくこれに必要な諸般の準備を完成することが、國策の遂行上もつとも急務であると信ずる。

五

つぎに、日本語の海外進出に對して、力づく要望されて居るのは、優秀な日本語教師の養成である。わが國では外國人に日本語を教授する必要を感じたのは、つい近頃のことである。もつとも、朝鮮や臺灣がわが領土に歸して以來、ここに日本語を普及せしめることが必要であつたから、はじめて組織的に日本語を外國人に授けることになり、それに對する準備や研究が、だん／＼進められて來た。また日露戰役後、ことに第一次世界大戰後になると、歐米の人々がわが國に來て、眞劍に日本語の研究や學習に従事するやうになり、一層日本語の教授法が、重要な問題になつて來た。朝鮮や臺灣では、日本語教授を目的とした教員の養成機關も設置され、近來やうやく日本語の教授が、軌道に乗るやうになつて來たが、しかし、歐米をはじめ、その他の外國人に、日本語を教授すべき優秀な教員が乏はめて乏しい。それはこれまで特に右様の教員を養成する機關が設けられたこと

がないためである。世間には日本人なら、だれでも日本語は教授し得るものと思へる人が少なくないが、これは非常な誤りで、今日のところ、確信を以て日本語を外國人に教授し得る人が、はたして幾人あるかは問題であらう。それはなぜなら、われ／＼日本人は、日本語は特に教へられることもなく、また學んだこともなく、たゞ自然に覺えたものである。ところが、習つたもの、學んだものならば、その經驗をたどつて、他人にこれを教へることが出来るが、自然に覺えたものでは、それがなかく／＼容易でない。日本人だから、日本人語を教へることは、朝飯前の仕事であると、高をくくつてやつて見ると、思ふやうにいかないので、窮地に陥る人が少なくない。實際現在の日本語を外國人に教へることは、決して容易な問題でないのであるから、特に堪能なる教員を多量に養成する必要がある。すなはち、その養成機關は内地と現地とに設立することが必要で、現地においては、その住民中より、志のあるものを選抜して日本語教師として、必要な

素質と、訓練を授けるやうにする。つまり、標準たる純正な日本語を習得せしめ、さらにこれに對する教授法を練習せしめることに、その重點を置くべきである。

しかるに、内地において養成するものには、日本語を教授するに必要な基礎知識を授けることに重きを置かなければならぬ。その基礎學科としては、言語學・音聲學・心理學・社會學・文語法・口語法および言語教授法等の一斑を授け、これを基礎として、日本語を的確に教授し得るやうに養成するのである。ことに大東亞共榮圏内の各民族に、日本語を授ける場合には、國語政策の一般知識を有することが、もつとも緊要である。すでに述べた通、共榮圏内に日本語を普及せしめることは、民族を同化するのが目的であるから、これについては、きはめて細心の注意を要する。政策の重大意義をふかく理解せずして事に當ると、やゝもすれば、政治的の重大な問題を引き起し易いのであるから、あらかじめ、この政策に

つきその大要を學ばせて置く必要がある。

なほ日本人にして、共榮圏内の各民族に、日本語を教授しようとするには、現地の土語を一通り學んで置かなければならぬ。たとへば、ビルマ・マレイ半島・蘭印および比島等において、日本語を教授する場合、その現地における土語を、一通り心得て置くことが肝要である。さきに述べた通、現地の住民が、日常の生活において、どれだけの語彙や文型を有するかを、あらかじめ心得て居れば、それに即して、日本語を有利に授けることが出来るのである。かれらの日常生活範圍外に存する、日本語の語彙や文型を授けては、容易に理解させることが出来ないおそれがあらう。ゆゑに、これらの振合を按配して、日本語の普及を圓滑ならしめるには、日本語教師たらんとする日本人をして、あらかじめ現地語を一通り學んで置かせることが、力づくよく要求される。

六

人を導くには、まづ自肅反省しなければならぬ。身を修めることを忘れて、人を導かうとしても、その效がないのがもとより怪しむる足にぬ。由來われ／＼日本國民は、祖先傳來の國語に對する自肅反省の念が十分發達してゐない。わが日本帝國の國威を四方に宣揚するに至つたのも、われ／＼日本國民をして、大東亞の聖戰に勝ち抜くべき意氣を養つてくれたのも、すべて祖先傳來の國語に外ならぬ。しからば、つねに心を傾けて、わが國語を尊重愛護し、朝な夕なに感謝の念をさしげなければならぬのは、當然である。國民學校國民科國語の要目にも、國語愛護の念を培ふべきことを説示してあるし、中等學校および高等學校の教授要目にも、やはりこれをうたつてゐる。純正にして、しかも氣品の高い言葉づかひに、ふかく留意することは、文化人に取つて、もつとも必要な教養である。實に人格と言語とが、もつとも密接な關係を有することは、「馬子にも衣裳髪かたち」以上であるが、われ／＼日本國民には、英佛獨等の國民に比して、この心掛

がはなはだしく缺けてゐる。フランス國民のごときは、純正にして氣品に富んだ演説を聴く楽しさは、有名な音楽にも優るといつて居る。であるからこそ、フランス國民の國語を愛護する觀念が、實によく發達してゐるのである。しかるに、われ／＼日本國民は、國語の尊重愛護に對する觀念がはなはだ乏しく、標準語を純粹なる状態に維持しようといふ心掛が、一般に缺けてゐる。相當の地位にある人にして、俗惡野卑な言葉を用ゐて、毫も意に介しないし、社會もまた別にこれを咎めない。英佛獨等においては、言語に對する社會的制裁がすこぶる嚴重であるから、いやくも相當な社會的地位を有する人にして、俗惡野卑な言葉づかひをするやうなことは、絶対にあり得ないし、もしあつた場合には、かならず嚴重な社會的制裁を蒙るであらう。しかるに、現在わが國においては、言語に對する社會的制裁はほとんどないにひとしい状態である。さきに述べた通、朝鮮や臺灣等において、純正な標準語を教授することに全力を傾注して居るが、内地から來

る人々の言葉づかひが、亂雑であり、俗悪であるために、純正な日本語の普及がはなはだしく妨げられてゐる。これを見ても、いかに日本國民の國語に對する自肅反省の念が缺けてゐるかが知られるであらう。

いまや日本語を大東亞共榮圈の通用語にもり立てようとする氣運がさしせまつてゐる。おそらく遠からずその實現を見るに至るであらうと信ずるが、いやしくもこれを大東亞共榮圈内の通用語とする以上、きはめて純正にして、しかも氣品の高いものにもり立てなければならぬ。俗悪野卑なものでは、通用語としての大任を果すことが出來ないのであるから、日本國民たるもの、真に一億一心國語に對する自肅反省の念を高め、國語の標準をかたく維持すべき、強固なる覺悟を有することが、大東亞共榮圈の盟主として、その重大な責務を果す上に、もつとも緊要であると信ずる。

(終)

昭和十七年十月十日印刷
昭和十七年十月十五日發行

三〇〇〇部

〔認承協文出〕
ア 100403 號



大東亞共榮圈と
國語政策

◎定價 參圓八十錢

著 者 者

保 科 孝 一

發 行 者

東京市麴町區富士見町二丁目八番地
株式會社 統 正 社

印 刷 者

東京市本所區東駒形三丁目十番地
文化印刷株式會社
代表者 西野末雄
(東 東 一 一 四)

發 行 所

東京市麴町區富士見町二丁目八番地
株式會社 統 正 社
電話九段(33) 四六〇・二四〇六・二八八番
振替東京 三〇六・一四六二番

配 給 元

東京市神田區淡路町二丁目九番地
日本出版配給株式會社

藤井・中村兩陸軍中將閣下題字
笠原陸軍少將閣下、宮田・杉田兩博士序
佐藤四朗著

兵隊と其の兄

B六判二〇〇頁
價一・五〇送・三

戦時下國民の龜鑑 逞しき躍進日本
戦線・銃後を結ぶ美しき肉親愛、魂の交流。
見よ！ この兄弟の言々句々眞に惻々として胸
に迫る。

蘇峯徳富猪一郎先生題字 ヒュー・エス・ジョンソン著
讀賣新聞宮崎編輯局長序 朝野諄・織田英譯

地獄への参戦

—アメリカの錯覺—

B六判二二〇頁
價一・五〇送・三

敗戦後アメリカの内面曝露
ルーズヴェルトの参戦謀略を批難攻撃し、對日
戦の理由なきを喝破し、アメリカの輿論不統一
を語る。

武藤貞一著

世界の將來

B六判二八〇頁
價一・八〇送・三

世を擧げて戦亂の巷と化した時、斯界の權威、
武藤先生が今後の變貌に就いて蘊蓄を披瀝せし
會心の著書。

南洋廳内務部長 堂本貞一閣下序及題字
軍司令部囑託 小林 織之助著

南太平洋諸島

B六判七六〇頁
クロース製箱入
價五・五〇送・三

東印度及濠洲の點描

B六判二八〇頁
價一・八〇送・三

「南太平洋諸島」と「東印度及濠洲」を巡遊せし著者
が、各島嶼の事情を詳細に紹介せしもの。
著者撮影の寫眞各數十葉を掲載す。

終